

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	令和4年10月 4日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、 <b>緊急質問</b> 、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <b>一問一答</b>
答弁を求める者	市 長

### 【件名及び発言の要旨】

#### Ⅰ 米海軍横須賀基地のPFOS等に係る国からの説明（第4報）について

9月30日防衛省南関東防衛局の局長と企画部長がPFOS等の流出に係る説明を市長に行った。8月29日の米海軍による基地内の排水施設内のサンプリング調査結果は生活排水ラインの出口でPFOS、PFOAの合算値は8,592ng/L、産業排水ラインの出口でPFOS、PFOAの合算値は5,450ng/Lだった。また、排水処理場の粒状活性炭のフィルターの設置については11月1日までには設置との報告があった。

以上の観点から、現時点における市長の御認識と今後の対応について大きくは9点にわたって伺う。

- (1) サンプリングの数値報告について今回は出口の報告しかないが、それはなぜか。また、改めて入口の合算値をお示しいただきたい。
- (2) 9月12日に市長と司令官がビデオ会議を行った際、司令官は「粒状活性炭を使用したフィルターは近いうちに設置する予定です」と発言されている。しかし、実際には11月1日までには設置とのことだ。9月12日に近いうちにとっていたのに実際には1か月半以上先までを視野に入れることとなった変更理由

は何か。確認するべきと思うがいかがお考えか。

- (3) 市長は南関東防衛局長とのやり取りの中で排水をストップさせることを要求されている。これに対して南関東防衛局長は「なかなか厳しいところもあるかもしれませんが、米側に申し入れていきたいと思っております」とおっしゃっている。まだ、返答はされていないと思うが、返答がなされるまで、継続的に返答の要請をしていただきたいと思うが、いかがか。
- (4) 最終的な結果が出ていなくても途中経過でも現段階で判明していることを市民に明らかにするべきではないか。市長は原因究明の具体的内容や途中経過の報告を米海軍と国に求めているのか。
- (5) 汚泥そのものの調査も行っているのか。行っているとすれば、その報告も求めるべきではないか。
- (6) 今後は口頭ではなく国と米海軍に文書で質問し、文書で回答を得るという形式でやり取りを行ってはいかがか。
- (7) 本市も地元自治体として率先して立入調査に参加するべきと考えるがいかがか。
- (8) これまでの米海軍とのやり取りを踏まえ、そもそも米海軍は横須賀市に迷惑をかけているという認識があると、市長は感じておられるのか。また、本市は正式に米海軍から謝罪を受けているのか。
- (9) 市長は「PFOS等の管理も含め、米軍の運用そのものを疑わざるを得ない」「これまで私は米側と話をして、誠実に履行すると言っておきながら、このような状況になったのは怒りを禁じ得ない」「水質検査をしながら日常的に汚泥除去すると言っておきながら、この状態ということは、米軍の運用を含めて何をしているのか、調査を含めて疑わざるを得ない」「これまでの信頼関係が一気に失われたと私は思っております」とおっしゃっています。改めて市長のお気持ちをお聞かせいただきたい。また、今後司令官と直接面会する、あるいはオンラインで会議を行う予定はあるのか。今回の出来事は、今まで市長がおっしゃっていた「米軍も市民」という考えを撤回するに値する事案だと思うが、いかがお考えか。